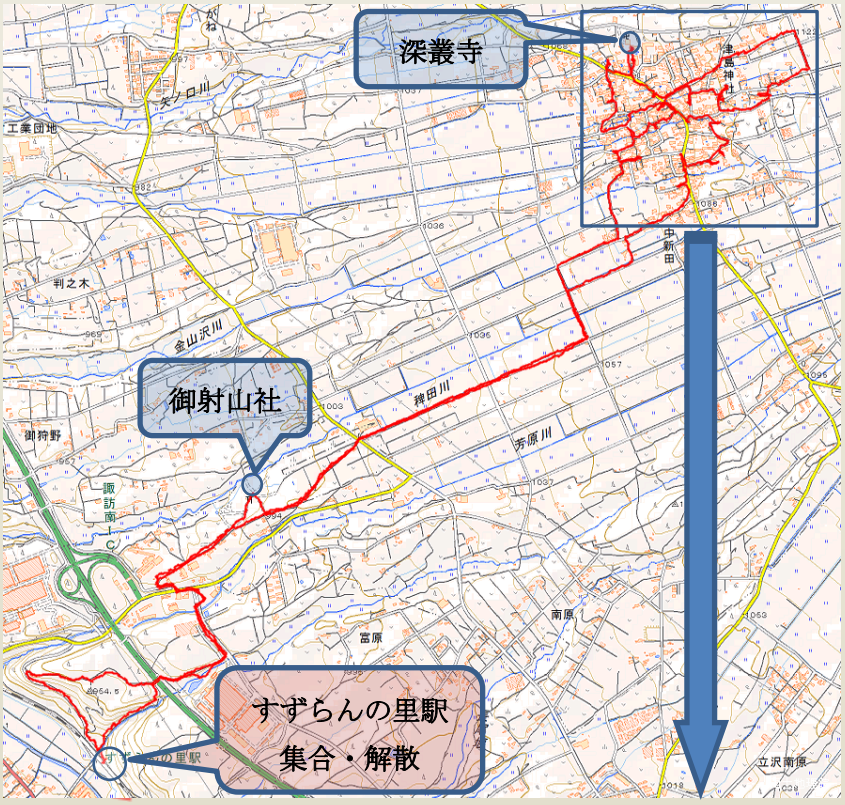
原村中新田地区の鏝絵巡り

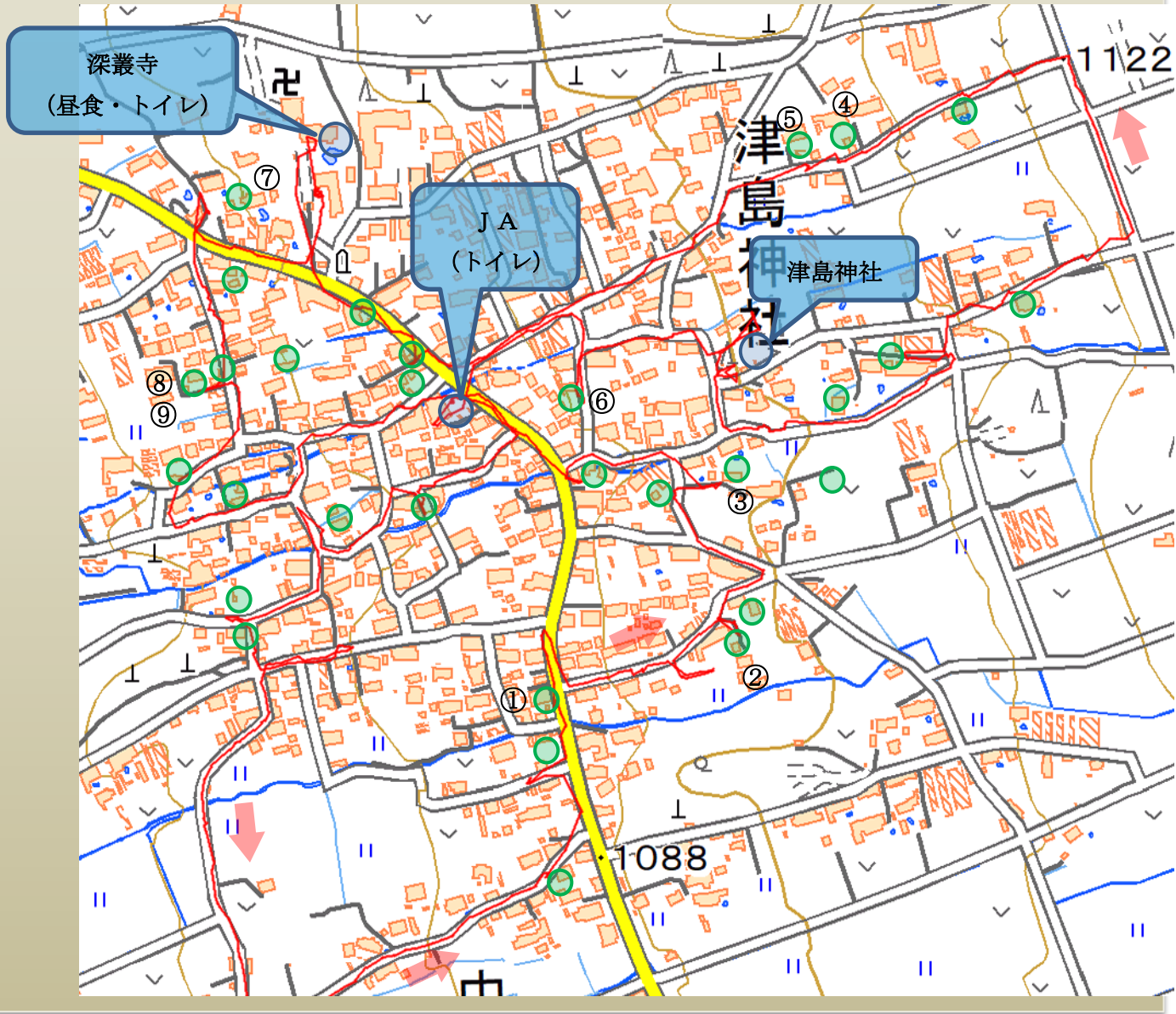
鏝絵巡りシリーズ原村編１



- **距離**　約 15km
- **所要時間**　４時間 30 分
- **スタート・フィニッシュ**　すずらんの里駅
- **コース**

すずらんの里駅（トイレ）－ファミリーマート（トイレ）－御射山社－神勅不動尊－鏝絵８件－ＪＡ（トイレ）－鏝絵１件－津島神社－鏝絵９件－深叢寺（昼食・トイレ）－鏝絵９件－ＪＡ（トイレ）－鏝絵４件－ファミリーマート（トイレ）－すずらんの里駅

● は鏝絵の場所を示します



原村では１棟の土蔵に何カ所にもわたり鏝絵が施されている例が多く見られます。制作年代は明治時代初期頃が一番古く、平成に入ってから新築した土蔵は、お金も心のゆとりもある時代の豪華さがうかがわれます。丑鼻と呼ばれる２尺から２尺１寸の丸い台座に施す鏝絵は、大黒や恵比寿などの縁起物が多く、ほかには家紋・文字・屋号などがあり、同じ絵柄でも左官職人の個性が出て、見比べるのも楽しいものです。

ここ中新田は原村では一番古い集落。緑と光あふれる高原の風をたのしみながら、宝さがしの気分で原村の鏝絵を巡ってみませんか。

① 渋い金色を使って上品なデザインの鯛を抱えた恵比寿様。ここでしか見られない作風です。

④ 繊細な「松に鶴」。家主さんが絵心のある方で、これは鏝絵ではなく絵の具で描いたのだそうです。鏝絵ではないけれど一見の価値あり。

⑦ 「松に鶴」。ここでも松の葉をブルー系に色づけ、ひときわ大きな丑鼻に描かれた芸術的な作品。

② 羽を立体的に描いた勇壮な「松に鷹」。松葉をブルーで描いているのも珍しい。

⑤ 妻壁端の窓に描かれた「梅に鶯」。モノクロで墨絵のような雰囲気。

⑧ 大黒様と恵比寿様の共同作業でお宝袋に箕で粒金をすくい込んでいる珍しい絵柄。口と手で袋の口を広げているのも面白い。

③ 大黒様はよく描かれる題材ですが、こんな色合いの衣装も珍しい。頬の膨らみや袋の口を縛ってできるしわの起伏など肉感もよく描かれています。

⑥「鯉の滝登り」、尾が丑鼻から飛び出して描かれています。鯉の滝登りはこのほかに２点見られます。

⑨ 虹梁の若葉、その下に描かれているのは庭で餌を啄む２羽のニワトリ。小菊や横倒しになった臼も描かれています。これは珍しい。⑧と同じ蔵です。